

奉仕プロジェクトについて。
スリランカ訪問の報告と ともに。

2018・2・8

中村俊人

皆さんこんにちは、久しぶりの卓話の時間を頂きました。

本日は、本来、クラブの職業奉仕委員長・地区の職業奉仕委員長との役目柄、職業奉仕について卓話をしないとないかとは思いますが、職業奉仕についての卓話は今年度、クラブの卓話時間が空いた時にまたお願いし卓話をさせて頂く事といたしまして、本日は、1月11日から18日まで、スリランカへ訪問をしてまいりました報告をさせて頂きたいと思います。

なぜスリランカなのか。から簡単にお話しいたしますと、

今まで、ロータリーの組織としては、**2010年に五大奉仕として、クラブ奉仕・職業奉仕・社会奉仕・国際奉仕・青少年奉仕（2010年に新世代として加えられ、2013年に青少年に変わった）と独立した5つの委員会が纏って 奉仕プロジェクトとなりました。**

その考えから、クラブの中の活動は一つ一つの奉仕として考えることよりも、連携されたものがあることを考えることが大切だと考えます。個人で行う職業奉仕から、クラブとして行える、社会奉仕、または国際奉仕、そして何よりは、個人として事業をしっかりと営み、ロータリアンとしてクラブに参加できること、そこが大切です。

私が2010年に地区米山委員長を仰せつかっていました時に、米山奨学生の応募面接試験で応募して参りました千葉大大学院在学中のサジワニーさんと会うことになりました。

彼女の日本への思いとまた、彼女が育った環境・スリランカの貧困の子供たちの様子やその支援をされています東金のコスモス奨学金の鈴木康夫氏の活動を知り、感銘を受けてスリランカの里子を引き受けたところから始まります。

私たちのクラブにもその思いを共に受け、里親として支援して頂いている、新田さん・渡邊さん・清宮さん・酒巻さん・荻野さんが里親として支援活動をして頂いていますが、2013年に新田さんと私の家内と3人でその様子を確認しにスリランカに訪問致しました。

そこで目にした子供たちの家庭環境は今の日本では考えられないような現況でした。

今日食べる食事ですえままならず、窓もなく雨をしのぐ事が精いっぱいの中でも、勉強意欲をしっかりと持った目の輝いている子供たちを見てまいりました。

柏東ロータリークラブとして何が出来るか。そこで考えたことが「柏東RC文庫」です。

皆さんからの寄せられた寄付金とクラブの資金をもとに本を増冊し、現在の図書室として地域に・また子供たちへ利用されています。設立当時にまず5年間として約束をし、今年も藤原会長と森幹事の奥様が本贈呈へと訪問し足を運んで頂きました。感謝いたします。

現在、その他の有志の皆さんからの本も含め、役3000冊以上の本が棚に整理されています。

今年も600冊の上寄贈されました。これは日本でいえば紀伊国屋のような本屋さんが協力して頂き、現地の子供たちが必要としている本をアンケートとしてとり、サジーさんのご主人でも有

りコスモス奨学金の事務局でもあります、メルビンさんに揃えてもらっています。

今年度の図書贈呈式には、藤原会長・森幹事の奥様・酒巻会員・柏西 RC の馬場氏が参加して頂きまして、藤原会長から、教育省の担当官と奨学会センターのお寺の住職でアマラワンサ僧に手渡されました。（写真）

以下のクラブの皆様が協力頂き支援していただいています。

大網ロータリークラブ⇒ 里子支援・食料支援として基金設立。そのたの支援含む

松戸西ロータリークラブ ⇒ 里子支援ポロンナルワ地域の貧困な学校へ楽器の贈呈

八千代ロータリークラブ ⇒ 里子支援 8名

市川南ロータリークラブ ⇒ 里子支援 1名

今回は君津ロータリークラブが水の悪い北部のポロンナルワ地域に浄水器をと活動支援を含め、私たち仲間と共に参加頂きまして、学校訪問し8校の学校に浄水器を贈呈してまいりました。

柏東ロータリーの里親仲間の皆さんや、柏市内の仲間も加わっていただき、君津 RC から 20 万、私たち有志の役約 20 万の費用を加算し、簡易浄水器を購入して贈呈をしてまいりました。

私ことの活動といたしましても、東葛地域（流山・松戸・野田）の少年サッカーチームやサッカー一連盟から毎年寄付をして頂いています、こどもたちからのサッカーボール・ユニフォーム・サッカーシューズなどや、涌井さんからもたくさんのサッカー用品をご寄付頂き、学校訪問をして贈呈をしてまいりました。

昨年は地区の奉仕プロジェクト委員会がセミナー時にスリランカ大使をお招き致しまして講和をして頂いた事もあり、二度ほどスリランカ大使館に訪問いたしました。今回スリランカからかえって参ります当日に、スリランカの日本大使館に訪問し、私たちのロータリアンの支援活動を報告させて頂きました。その後スリランカの教育大臣の私邸に訪問し、奥様や大臣とお話しをさせて頂き、私たちの活動をお伝えして参りました。3月にまた日本に来られるときに再開したい旨伺いました。

君津クラブのスリランカへの国際奉仕活動は、柏東ロータリークラブの方から同国北部の水事情の悪さ（写真①、②）と、コスモス奨学金の活動を聞いたことがきっかけになった。

先月 11 日(木)出発から 18 日(木)帰国まで、コスモス奨学金の里親さん達の同国訪問に合わせ、藤原会長・森幹事の奥さん・酒巻さんと共に訪問。（3人は 15 日に帰国）

中村は君津・大網の皆さんと共に支援活動として各学校や貧困な里子の過程に食料支援も含めて移動訪問いたしました。

・主要な日程は以下の通り。

1月11日 成田発 ⇒ コスモス奨学金の鈴木氏・サジワニーさん家族・ほかの里親の皆様
共に出発 コロンボ到着 子供達の出迎えを受ける。 写真

1月12日 コロンボからゴール・マータラへ里子訪問に出発
酒巻さん・渡邊さんの里子含む3人の里子訪問

1月13日 コロンボにて里子の家族とともに食事会として交流会をし久しぶりの交流をする。
食事後 ショッピングをする。

ガンパハのホテルに移動し、君津の皆さんと先発組19人と合流 (20時頃)

14日(日) 8:00出発

→ガンパハ近郊のスリ・ブンニャワルダナラマヤ寺院(コスモス
奨学金拠点)にて、奨学金授与式参加、里子たちと弁当
14時頃出発→シーギリヤのホテルに移動。(18時頃着)

15日(月) 8:00出発

→ボロンナルワのお寺(支部)訪問、式典参加
(奨学金授与、浄水器贈呈、サッカー器具、楽器贈呈) 写真
13時頃出発→近くの小学校訪問(浄水器贈呈) = 昼食抜き
→里子宅(4軒)を訪問しつつ、シーギリヤのホテル着(20時頃)

16日(火) 8:00出発

→シーギリヤロックのフォトスポットにて写真→里子宅訪問(3軒)
→15時頃 仏歯寺の見える丘のレストランで昼食→里子宅訪問(1軒)
→ニゴンボのホテル着(21時頃)

17日(水) 8:30出発

→コロンボにて土産物購入
→コスモス奨学金鈴木先生と親交のある中国仏教友好協会
プロボディーニ女史宅にて昼食
→15:00 日本大使館訪問/田中館員に活動報告・協力要請 写真
→16:30 カリヤワサム教育大臣(初等・中等教育)公邸訪問、写真
活動報告・協力要請
19:50コロンボ発→18日(木)7:30成田着(8時間)

・主要な行事等は以下の通り。

○ガンパハ近郊での奨学金授与式

コスモス奨学金の現地事務局のあるお寺で開催。司会は里子代表の男女学生で、しっかりした態度が印象的。お寺の偉いお坊さん、教育省の代表者、中国との仏教友好協会の代表者などが、コスモス奨学金の活動などをたたえ、里子たちに立派な大人になってお国の役に立ち、奨学金への恩返しをすること、など皆さん長い演説。参加した里子達全員に学用品など授与。授与されたリュックには学用品などがいっぱい入っておりずっしり重く、小さい女兒はひっくりかえりそうになっていた。日本から参加した里親さん達も一人ひとり挨拶をし、サジーさんがシンハラ語に翻訳。参加者の話では、昨年までは、このお寺1カ所で行ったため、里子の親たちも含め300人近い参加者となり、テントを張って開催した。

暑い中で一人ひとりに授与する長時間の行事となり、大変だったとか。今年は数カ所で分散し、屋内で比較的短い(それでも3時間位)時間ですんだとか。尚、この授与式の模様は、1/18日付の現地の英字新聞のTOPに掲載されるなど、6紙に掲載された。

○ボロンナルワのお寺で奨学金授与式、浄水器などの贈呈式(近くの小学校も訪問)

奨学金の第一期里子だった教師が司会。浄水器は近くの学校8校に贈呈するが、当日は入学式などが行われる日に当たり、多忙のため6校の校長等が参加した。訪れた小学校では、生活

が厳しいのか裸足の子も何人かいたが、皆明るく目が輝いていた。

この浄水器で、子供たちが少なくとも学校にいる間は、比較的きれいな水をのみ健康的な学習時間が取れることを望む。

○里子達の自宅訪問

3グループに分かれ、小型バスに分乗。それぞれ、サジーさん、メルビンさん、現地ガイドが通訳となる。私たちまで接足礼をうけ戸惑う。里親さんからのお土産や写真などを受け取る里子達は嬉しそう。はにかみも交え、笑顔を返す。里親に向けた手紙を前日23時ころまで掛かって日本語で書いた里子もいた。我々が訪れた里子達は自分の机や部屋があったが部屋に裸電球一つしかなく、勉強するには暗い。勉強を頑張るように、と里親。辞書がないと言えば送る、電力事情が悪いので太陽光充電型の電灯をあげたいとの声も出る。スリランカの一般的な給料は2万~3万ルピー(14千円~21千円)/月と聞かすが、定職がなく4千ルピーという家もあった。椰子のジュースやビスケットを出され、申し訳ない気持ちになる。里親に聞いた通り、どの家も貧しいながら屋内外ともきちんと掃除され、庭もよく手入れされていた。彼らは日常裸足で生活しており、我々が靴のまま家へ上がるのは躊躇された。

○日本大使館教育大臣公邸訪問

コスモス奨学金の活動の説明と協力要請をおこなったが、双方とも丁寧に受け止めてくれた模様。教育大臣は日本の食べ物や観光関連の情報はよく聞いているようであった。

○人物

移動中の車中で、コスモス奨学金副代表の野口先生からジャヤワルダナ氏について本を書かれたと聞いた。同氏はサンフランシスコ講和会議で日本を国際社会に復活させる後押しをした有名な演説をし、その後も日本の皇室や仏教界含め親交を深めた。里親の一人は昨年スリランカ訪問の帰りにコスモス奨学金の一行と飛行機が一緒になり、この話を聞き里親になることにしたという。スリランカ人は敬虔な仏教徒が多く、日本に対し好意的な感情を持つ人も多いという。こうした両国関係は、恥ずかしながら私はよく理解していなかったし多くの日本人も知らない事かと思う。

○観光地、街並みなど

訪れた町のうち、近代都市化され高速道路や高層ビルはコロンボでしか認められなかったが、そのコロンボでさえ、川のほとりで我々のバスの横に姿を現しびっくりした。(写真⑩) 地方都市では、野生の像がジャングルから出てきて、好物の塩などをもとめて人家を荒らし、場合によっては死者も出るとのこと。里子の親にもそうした犠牲者がいるようだ。

観光はシーギリヤロックを遠くで写真を撮ったぐらいであったが、スリランカは欧米人にも人気の様で、内戦が終結して10年目を迎え、今後さらに主要産業に発展するように思う。次回訪問時には、ゆっくり観光地もめぐってみたい。

・総括

○スリランカは貧しい国で対外債務に苦しんでいるため、十分な資金が教育に割けない状況の様である。コスモス奨学金の里子達にみられるように、向学心は強いが健康面でも厳しい生活を強いられている子供達が多い。今回の浄水器の寄贈はまだ一部に学校に限られており、ジャヤワルダナ氏の功績や両国関係についての啓蒙活動も含め、当クラブとして継続的な活動が必要と考える。また、コスモス奨学金の里親制度の紹介や、有志に呼びかけ同奨学金基金に参画したい。帰国後にこの話を聞いて頂いた地区委員長仲間が、里親として参加して頂くことになりました。